シグマ光機株式会社

証券コード：7713

OptoSigma®

第48期 報告書

2022年6月1日 ▶ 2023年5月31日

Light Solutions for Life®

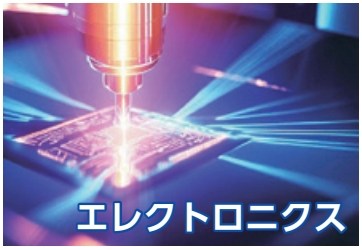
光なら、きっとできる。

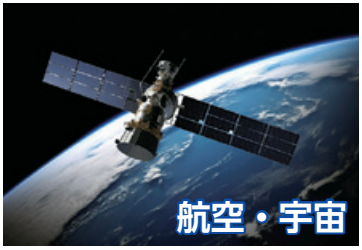
Contents

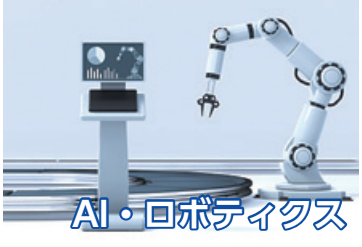
株主の皆様へ
2023年5月期業績（連結）
2023年5月期セグメント別概況（連結）
2024年5月期業績見通し（連結）
2023年5月期海外業績の概況（連結）
Topics
- 新製品紹介①　ドライバー一体型自動ステージ（SBIS）
- 新製品紹介②　NFP観察キット
- 九州営業所移転
- 新工場棟2棟の完成（石川県白山市）

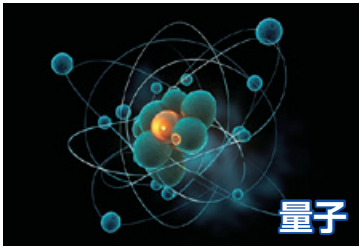
サステナビリティ活動
株主様アンケート結果のご報告
連結財務諸表
株式の状況／会社概要

経営理念　我社は光産業を通じ、社会に貢献します。









「感謝」「挑戦」「創出」　Light Solutions for Life®

光技術を通じて社会課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期は、成長産業向けを中心に重点戦略を推進した結果、売上高は前年同期比9.8％増の113億67百万円となり、過去最高を更新いたしました。利益面では、原材料・部材価格及びエネルギー価格高騰の影響の他、経済活動の正常化に伴う販売促進費・広告宣伝費や旅費交通費の増加、また人的資本への投資による労務費・人件費の増加等の影響もございましたが、高付加価値製品の販売、継続的な生産性向上等に注力したことにより、営業利益は業績予想数値は未達であったものの、前年同期比4.6％増の15億4百万円となりました。また、経営資産の有効活用及び資産の効率化を目的とした固定資産売却もあり、当期純利益は前年同期比で大幅に増加した27.6％増の14億93百万円となりました。これらの収益拡大を反映し、当期通期配当額を増額いたしました。今後も、更なる企業競争力の強化に向けた戦略的投資やサステナビリティ経営体制の構築等、持続的な企業価値の向上に努め、着実な株主還元を通じて、皆様の信頼とご期待にお応えしてまいる所存でございます。株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社
代表取締役社長　近藤 洋介

世界経済の回復基調を背景に、当社需要も堅調に推移。

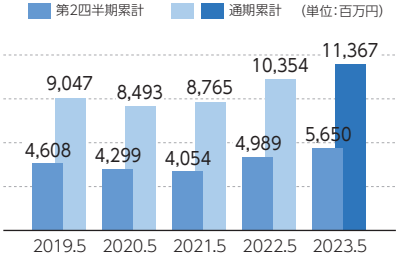
世界経済はCOVID-19の影響から経済活動の正常化が進み、総じて回復基調で推移いたしました。当社においては、国内・アジア地域では、電子部品・半導体業界向けの主要顧客の需要が好調に推移し、フラットパネルディスプレイ業界向け等、一部の大口案件により大幅な増収となりました。バイオ及び通信業界向けの主要顧客の需要は堅調に推移いたしました。海外地域は、総じて堅調に推移いたしました。

外部費用・販売促進費等が増加も、需要増により増益。

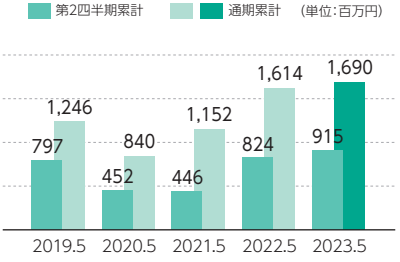
原材料・部材価格及びエネルギー価格の高騰等を背景に材料費・外注加工費等の外部費用が増加し、展示会出展等の対面型営業活動の増加による販売促進費・広告宣伝費や旅費交通費の増加、また、増収増益に伴う従業員への還元による人件費の増加等により、利益率は悪化いたしましたが、売上高の増加による増益の他、一部利益率の高い製品の需要が堅調に推移し、営業利益額は前期比で増加いたしました。

2023年5月期業績（連結）

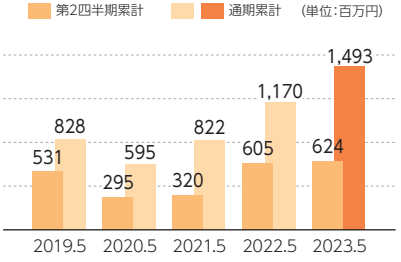
売上高 113億67百万円
（前年同期比 9.8%増）



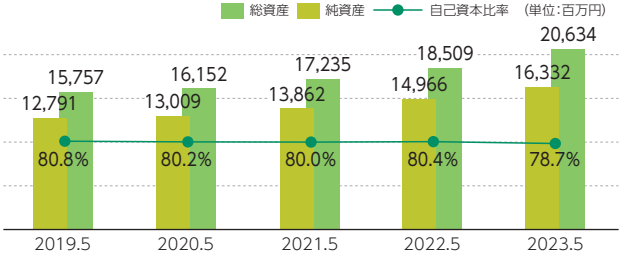
経常利益 16億90百万円
（前年同期比 4.7%増）



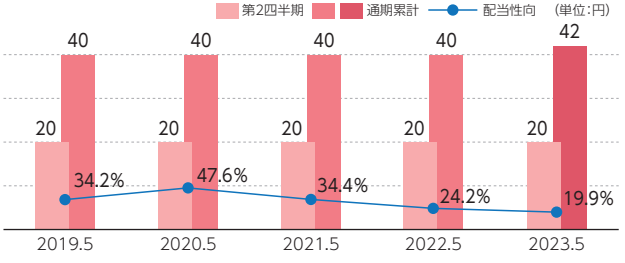
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益 14億93百万円
（前年同期比 27.6%増）



総資産・純資産・自己資本比率



配当金、配当性向

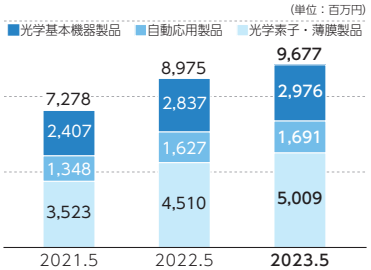


2023年5月期セグメント別概況（連結）

▶ 要素部品事業

■ 売上高

7.8% 増
（前年同期比 701百万円増）



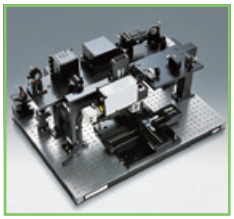
POINT 引き続き堅調に推移。
電子部品・半導体向け主要顧客が好調。

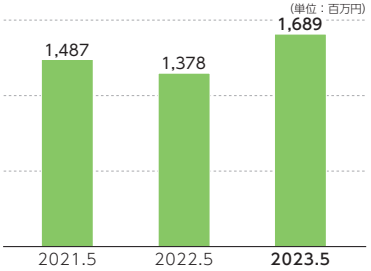
大学・官公庁向け及び産業分野向けともに堅調に推移いたしました。国内・アジア地域は、国内を中心とした一部の電子部品・半導体業界向けの光学基本機器製品や光学素子・薄膜製品が好調に推移し、バイオ業界、通信業界向けの自動応用製品は堅調に推移いたしました。米国地域、欧州地域ともに堅調に推移し、東南アジア地域は、COVID-19の影響が徐々に改善し、回復基調で推移いたしました。

▶ システム製品事業

■ 売上高

22.6% 増
（前年同期比 311百万円増）





POINT 総じて堅調に推移。
一部大口案件の影響で大幅な増収。

エレクトロニクス分野を中心に総じて堅調に推移いたしました。フラットパネルディスプレイ業界向けのレーザ加工機・検査装置向けの組込み用途の光学ユニット製品が堅調に推移するとともに、一部の大口のお客様への光学システム製品の納品が進み、大幅な増収となりました。また、電子部品・半導体業界向けは堅調に推移し、医療業界及び防衛業界向けは横ばいで推移いたしました。

2024年5月期業績見通し（連結）

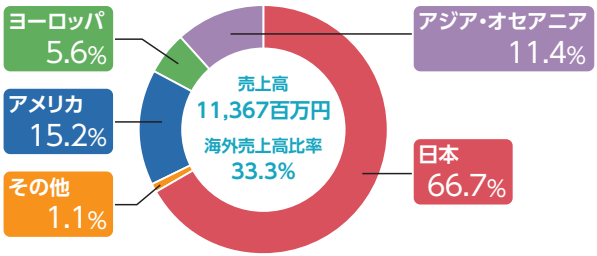
世界経済の正常化が進む中、先端技術分野を中心に当社製品の需要は堅調に推移すると見込んでおります。当社は、有力成長市場への提案型営業展開の強化や、オンライン販促活動の推進、業界専門企業との協業等を通じて収益拡大を図る他、海外主要展示会等への参加、SNS拡充等によるグローバルブランド認知度向上に取り組んでまいります。また、継続的な生産性の向上とコスト削減活動とともに、設備投資、研究開発投資、人材投資等の施策も引き続き推進してまいります。そのような企業活動の下、第49期年間配当金は42円（予定）とし、安定的な株主還元を行ってまいります。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	配当額
11,685百万円	1,275万円	1,400百万円	960百万円	42円（※通期累計額）
（前年同期比2.8%増）	（前年同期比15.2%減）	（前年同期比17.2%減）	（前年同期比35.7%減）	配当性向 31.0%

2023年5月期海外業績の概況（連結）

●顧客所在地別概況

■海外売上高構成比



■顧客所在地別売上高・営業概況

日本	7,584 百万円	電子部品・半導体業界向けの主要顧客を中心に光学要素部品が好調に推移。光学システム製品は一部の大口のお客様向けの納品が進み、大幅増収。
アメリカ	1,725 百万円	医療業界向け等の主要顧客を中心に産業分野向けの需要が回復し、堅調に推移。産業分野向けでの更なる需要獲得に向け人員及び設備を増強中。
ヨーロッパ	639 百万円	産業分野向けの需要が増加し、総じて堅調に推移。主要展示会出展、Webプロモーション展開等、販促活動及び当社ブランド認知度向上施策を継続。
アジア・オセアニア	1,292 百万円	COVID-19の感染拡大や、米国・中国での半導体産業の減衰等の影響を受け、やや弱含みで推移。景気の先行き不透明感が残る中、市場多様化・安定供給に取り組む。

グループ会社概況

OptoSigma

2023年3月期は、売上高は15.25百万$（前期比7.2%増）となりました。OEMの拡大と市場の多様化に注力し、企業能力強化に向け、人員及び設備を増強いたしました。2024年度は、社内での組立と光学調整＆評価による売上拡大に注力し、新しい販促ツール「Project Avatar」を中心に、Web拡販と認知度向上を促進してまいります。2025年度にカリフォルニア州コスタメサへ社屋を移転予定です。

OptoSigma Europe

2023年3月期は、産業用レーザ、ライフサイエンス、VRなど、幅広い分野からOEM案件が大幅に増加し、売上高は4.88百万€（前期比15.6%増）となりました。COVID-19の緩和とともに、主要展示会等のイベント参加が増加し、広範な販促活動が可能になりました。E-コマースへの取り組みや「Project Avatar」等、販促活動におけるグループ会社OptoSigma社との協力もあり、2024年度もWeb注文は増加しております。

上海西格玛光机有限公司

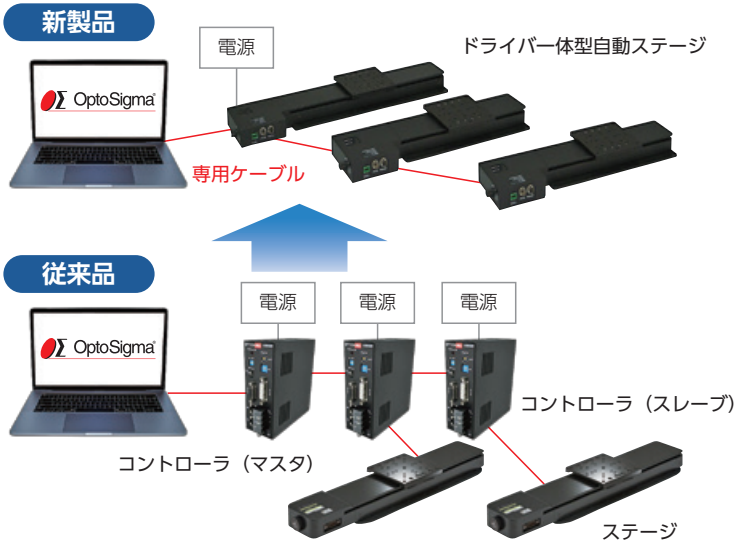
2023年3月期は、売上高は44.43百万元（前期比2.3%減）となりました。COVID-19の感染拡大や、米国・中国での半導体産業の減衰等の影響を受けましたが、大口案件におけるシグマ光機との生産補完効果もあり、減収増益となりました。先行きの需要動向は不透明ですが、引き続き継続的な成長と高付加価値製品の安定供給を目標に、生産技術と生産効率の向上に取り組んでまいります。

OptoSigma SIGMAKOKI Group

2023年3月期は、COVID-19、米国・中国の半導体産業の減衰、サプライチェーン問題等により、売上高は1.49百万SG$（前期比15%減）と予算を下回りました。2024年度は、受注残に基づき、2.50百万SG$の強い目標を掲げております。理化学用レーザ、量子関連、マイクロマニピュレータ等のサプライヤーとの協力による売上貢献を目指し、更なる拡販に向け、販促人員の増強やE-コマースの改善を進めてまいります。

Topics　新製品紹介①　ドライバー一体型自動ステージ（SBIS）

5相ステッピングモータドライバ及びコントローラを内蔵し、省配線・省スペースで、簡単なコマンドで制御できる自動ステージです。



- SBISシリーズ同士であれば、ステージ間を専用ケーブルで接続することで**最大99軸まで**接続できます。
  ※最大3台（3軸分）のステージごとに、1つのACアダプタ（電源）を接続する必要があります。
  ※従来のステージでは、ステージ1軸ごとに1軸分以上のコントローラ及びACアダプタを接続する必要があります。
- RS232CインターフェイスによるPC制御やステージ本体に装備されたジョグダイアルによる手動操作が可能です。
- 半導体・情報通信分野等における生産現場でのラインの組み換え等や、基礎研究を行う研究分野における実験環境での省スペース活用及び機能拡張等での活用が期待されます。

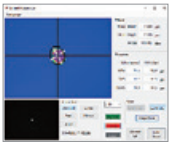
※詳細はこちらもご覧ください。
https://jp.optosigma.com/ja_jp/motorized-stages/sbis.html

Topics　新製品紹介②　NFP観察キット

測定対象のビーム径（※NFP）を簡単に観察できる観察系と制御ソフトウェアのセットです。

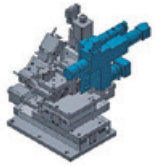
※NFP（Near Field Pattern）：近視野像。レーザや光導波路等の評価方法として用いられます。

NFP観察ユニット


制御ソフトウェア

- 測定対象のビーム径（NFP）、楕円情報、重心点などを観察及びデータ取得ができるため、光ファイバーや光導波路の簡易的な評価・実験に使用することができます。
- 可視カメラの他、IR（赤外線）カメラを用いて簡易的にNFPを観察できます。
- 自動調芯ユニットと本製品を組み合わせることで、画像視野内の輝度値を参照して調整が可能です。

※本ソフトウェアは、COM通信によるコマンド制御に対応しております。


調芯ユニットへの
取り付けイメージ

開発者コメント：開発部 片山さん

現在当社では、ユーザーがもっと手軽に自動調芯システムを構築できるように、「自動調芯システムの汎用モジュール化・カタログ製品化」に取り組んでおります。本製品もその取り組みの中で生まれたアイテムです。2台のカメラにより、可視と近赤外（1550nm）を観察可能で、可視映像により観察位置を決めた後、近赤外映像に切り替えビームを観察いたします。また、当社の自動調芯アプリケーション「SGALIGN」と組み合わせることで、輝度値のピークを自動的に探す調芯動作が可能となります。光通信分野での採用・活躍が期待されます。

Topics　九州営業所移転

2022年11月21日に九州営業所を移転拡張し、博多駅や福岡空港からのアクセスが便利になりました。新オフィスには講演会や展示会をはじめ様々な用途で活用することのできる広いスペースを確保しております。移転してすぐの12月に「九州フォトニクスサロン」を開催し、九州地区の大学の先生や学生25名に参加いただきました。今後も、新オフィスを活用したイベント開催等、営業力強化を図り、お客様満足度の向上を目指してまいります。

●九州営業所外観

●製品展示＆多目的スペース

●九州フォトニクスサロンの様子

Topics　新工場棟2棟の完成（石川県白山市）

2022年8月に発表いたしました「既存工場棟の増築・リノベーション及び新工場棟の建設」に関して、技術センター（石川県白山市）の既存工場棟のリノベーション及び新工場棟2棟が完成いたしました。2023年8月より稼働を開始する予定です。2棟のうち、1棟は自動応用製品の新製品の他、調芯大型装置や装置組込製品の量産化・OEM化等の生産能力の向上、もう1棟はライオンパワー株式会社、ミナト光学工業株式会社と当社の3社で設立した合弁会社「LMS株式会社」と連携した医療・介護分野向け製品等の開発力の向上を目的としております。

※能登工場の増築・リノベーション工事は現在進行中です。完成でき次第、速やかに発表いたします。

●技術センター新工場棟（2棟）外観

●技術センター新工場棟屋内

●LMS株式会社ロゴマーク

LMS Co.,Ltd.
Life & Medical Solutions

サステナビリティに関する考え方

当社グループは、「光産業を通じ、社会に貢献します」という経営理念の下、光技術を通じて社会課題や環境課題に取り組む中で、「暮らし」や「いのち」を支える価値ある光ソリューションを提供し、持続可能な社会価値を創出することを目指しております。当社グループは「光ソリューション・カンパニー」として、すべてのステークホルダーから信頼され、かつ持続的に企業価値を向上させることを目的として、「サステナビリティ基本方針」「シグマ光機行動規範」を定めております。この基本方針・行動規範の下、社会課題の解決と持続可能な社会の実現を目指して、適切かつ誠実な企業活動を推進しております。

「光科学」分野の人材育成

光技術に関する教育の提供を通じた次世代を担う人材育成に継続して取り組んでおります。

CORAL（先端レーザー科学教育研究コンソーシアム）

人材育成への取り組み

当社はすべての従業員が「主体性」をもって行動し、組織を横断して「協働」する、「多様性」と「専門性」を兼ね備えた人材の育成・輩出を目指しております。新入社員、若手、中堅、管理職、女性従業員等を対象に、各職位に沿った教育体系及びキャリアパスを定め、教育・研修を実施しております。

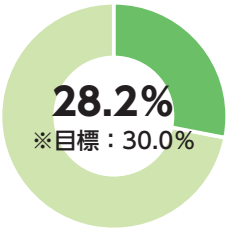
中堅社員向け研修

女性活躍推進法に基づく行動計画進捗のご報告

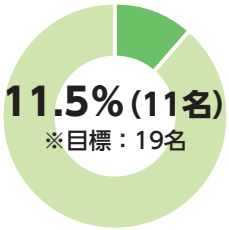
女性の管理職割合等の目標に対する達成度を定期的に把握・管理しております。

計画期間：2021年4月1日～2026年3月31日（5年間）

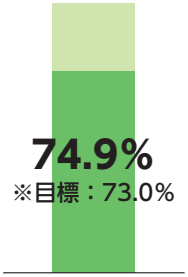
■製造・開発職種の女性正社員割合



■管理職・管理職下位階層の女性従業員割合



■年次有給取得率

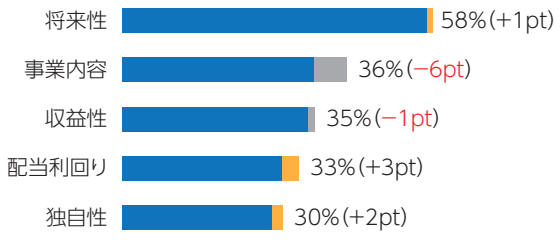


詳細はこちらをご高覧ください。
https://www.sigma-koki.com/sustainability/social/employee/

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

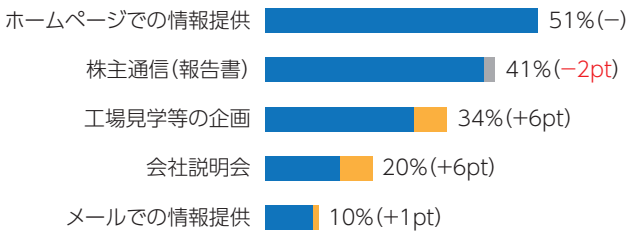
第48期中間報告書で実施したアンケートは、当社の全株主様5,193名（2022年11月30日時点）の約3%に相当する165名の株主様からご回答いただきました。
皆様よりお寄せいただいたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

●当社株式を購入された理由



※括弧内は、対第47期中間比

●充実を期待するIR活動



※括弧内は、対第47期中間比

株主様からのご意見

Q 人的資本経営への取り組みを教えてください。

A シグマ光機は、「人材」こそ、すべての価値創出の源泉であると考えております。この考え方に基づき、ジェンダーや国際性、年齢等に関わらず、すべての従業員一人ひとりがそれぞれの個性と能力を最大限発揮し、やりがいを持って働き続けることを目指して、人材育成及び社内環境整備等、人的資本経営を推進しております。今後も、持続的な企業価値の創出に向けて、人的資本経営への取り組みを強化してまいります。

Q フリーキャッシュフロー（以下FCF）の創出に関する考え方を教えてください。

A シグマ光機は、高付加価値製品の開発・販売、生産性向上、資本効率の改善等、FCFの最大化に努めております。第48期では、近年の収益拡大を背景に、通期配当を増配させていただきました。そのような中、技術トレンドの変化等、事業環境の変化が激しく、設備投資及び人材投資等、積極的な成長投資が不可欠となっております。引き続き安定配当とともに成長投資を継続し、長期的なFCFの最大化に取り組んでまいります。

株主様からのご意見・ご要望のご紹介

- 性急な規模拡大は追わず、研究開発を重点に、堅実な成長を期待しております。
- 光技術に興味があって、今後の成長を楽しみにしております。
- 利益に見合った増配と自社株買いをお願いいたします。
- 貴社の企業理念が所々に感じられ、改めて今後も応援していこうと思いました。

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当　期 2023年5月31日現在	前　期 2022年5月31日現在
（資産の部）		
流動資産	13,251	11,589
固定資産	7,382	6,920
有形固定資産	3,880	3,578
無形固定資産	79	102
投資その他の資産	3,422	3,238
資産合計	20,634	18,509
（負債の部）		
流動負債	3,042	2,533
固定負債	1,259	1,009
負債合計	4,301	3,543
（純資産の部）		
株主資本	15,424	14,214
その他の包括利益累計額	817	667
非支配株主持分	90	83
純資産合計	16,332	14,966
負債・純資産合計	20,634	18,509

連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当　期 2022年6月 1日から 2023年5月31日まで	前　期 2021年6月 1日から 2022年5月31日まで
売上高	11,367	10,354
売上原価	6,926	6,269
売上総利益	4,440	4,084
販売費及び一般管理費	2,936	2,646
営業利益	1,504	1,437
経常利益	1,690	1,614
親会社株主に帰属する当期純利益	1,493	1,170

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当　期 2022年6月 1日から 2023年5月31日まで	前　期 2021年6月 1日から 2022年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	982	942
投資活動による キャッシュ・フロー	182	△708
財務活動による キャッシュ・フロー	△112	△532
現金及び現金同等物に 係る換算差額	142	184
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	1,195	△112
現金及び現金同等物の 期首残高	3,135	3,247
現金及び現金同等物の 期末残高	4,330	3,135

解説ポイント

●連結貸借対照表

＜資産の変動＞

流動資産は、現金及び預金、商品及び製品、有価証券がそれぞれ増加し、受取手形が減少したこと等により前期末比で14.3％増加いたしました。固定資産は、当社が所有する固定資産を売却したこと等により減少いたしましたが、当社の新工場棟建設に係る建設仮勘定、リース資産、繰延税金資産がそれぞれ増加し、前期末比で6.7％増加いたしました。この結果、総資産は、前期末比で11.5％増加いたしました。

＜負債の変動＞

流動負債は、設備関係電子記録債務、未払法人税等、1年以内に支払期日を迎えるリース債務がそれぞれ増加したこと等により、前期末比で20.1％増加いたしました。固定負債は、長期借入金が増加したこと等により、前期末比で24.7％増加いたしました。この結果、負債合計は、前期末比で21.4％増加いたしました。

＜純資産の変動＞

純資産は、前期末比で9.1％増加し、自己資本比率は、78.7％となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物は、前期末比で11億9千5百万円の増加となりました。

営業CFは、税金等調整前当期純利益、減価償却費、売上債権の減少でそれぞれ増加し、法人税等の支払、棚卸資産の増加でそれぞれ減少したこと等により資金を9億8千2百万円獲得いたしました。

投資CFは、定期預金の預入、有形・無形固定資産の取得による支出による減少があったものの、有形固定資産の売却による収入、保険積立金の解約による収入でそれぞれ増加したこと等により資金を1億8千2百万円獲得いたしました。

財務CFは、長期借入金の借入による増加があったものの、長期借入金の返済による支出、配当金の支払でそれぞれ減少したこと等により、使用した資金は1億1千2百万円となりました。

詳細な情報はこちらをご覧ください。https://www.sigma-koki.com/ir/document/

株式の状況（2023年5月31日現在）

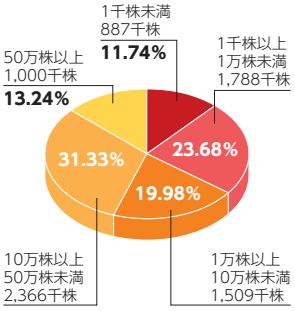
発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	7,552,628株
株主数	5,403名 （前期末比237名増）

主要株主

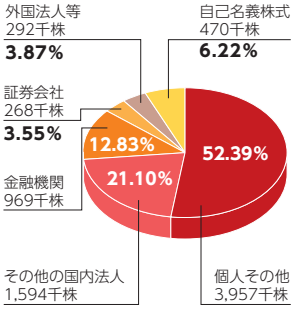
株　主　名	所有株数（千株）	持株比率（%）
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.11
シグマ光機取引先持株会	445	6.29
シグマ光機従業員持株会	216	3.04
株式会社ツシマ	215	3.04
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.86
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社サンライズクリエート	148	2.09
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	147	2.08
杉山大樹	110	1.56
株式会社三井住友銀行	110	1.55

（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、自己株式（470,450株）を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 自己株式（470,450株）を含んでおります。

会社概要（2023年8月29日現在）

社　名	シグマ光機株式会社
本　社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設　立	1977年（昭和52年）4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	367名（2023年5月31日現在）
役　員	代表取締役社長　近藤洋介 取締役　石井康之 取締役　多幡能徳 取締役（社外）　小澤勉 取締役（社外）　野﨑誠 取締役（社外）　松尾祐美子 常勤監査役（社外）　上野健司 監査役（社外）　南雲幸一 監査役（社外）　熊﨑美杉

（注）社外取締役 野﨑誠氏及び松尾祐美子氏、社外監査役 上野健司氏及び熊﨑美杉氏の4氏は独立役員であります。

主な事業所

- 本社・日高工場
- 東京本社
- 大阪支店
- 九州営業所
- 能登工場
- 技術センター

関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- 上海西格瑪光机有限公司
- LMS株式会社
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しております

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン（UD）書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

文字使用例
（従来）S36 ▶ （UDフォント）S36

株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会　毎年5月31日 期末配当金　毎年5月31日 中間配当を行う場合は、毎年11月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告URL	https://www.sigma-koki.com/

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部

（電話照会先）フリーダイヤル 0120-782-031（通話料無料）
（インターネット ホームページURL）
https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご留意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

（特別口座　口座管理機関）みずほ信託銀行株式会社
（郵便物送付先）〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）0120-288-324（通話料無料）

株主の皆様の声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（QUOカードPay500円）を進呈させていただきます
※なお、抽選は同時期に実施されている他社株主アンケートへの回答者を含めて行われます。

https://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 7713
いいかぶ　検索

空メールによりURL自動返信　kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り→
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本アンケートは、株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp

アンケートのお問い合わせ　「e-株主リサーチ事務局」
MAIL：info@e-kabunushi.com

(2201)

シグマ光機株式会社
東京本社　東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221（総務部）

UD FONT　FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080　VEGETABLE OIL INK